

## 「次期総合計画」につながるテーマごとの県民意見一覧表

集中議論 テーマ	徳島に「にぎわい」を生み出す (観光・文化・スポーツ・企業誘致・雇用・移住)
	<p>○ 徳島県はここ数年、宿泊者数最下位だったということで、その理由の一つとして考えられるのは、魅力的な宿泊施設や宿泊体験企画がないこと。旅の目的自体を「宿泊場所での遊びや体験」にする施策や事業を展開してはどうか。例えば、おしゃれなグランピング施設の誘致や、非日常なお寺での宿坊体験企画など。愛媛では大洲城に泊まれる「城泊」を実施しており、徳島でも歴史的建造物とコラボした宿泊体験を実施するのも面白いと思う。(徳島市・20代)</p>
	<p>○ 高知のよさこいは他県でも人気が高く、お祭りの時期には必ず見に行くという、高知県出身者ではない友人が複数人いるのに対し、阿波おどりをわざわざ見に行っているという他県出身者の話を聞いたことがなく、非常に残念に思う。 阿波おどりの一糸乱れぬパフォーマンスは、よさこいにも負けない迫力と感動があるため、県民一丸となってPRしていくべきではないだろうか。その取組がひいては、徳島県の観光客数の増加につながると思う。(徳島市・20代)</p>
	<p>○ 毎年、ゴールデンウィークに藍場浜公園で民間のイベントを開催しているが、同時期に開催しているマチ★アソビと連携したイベントに変えることで、もっと誘客効果を上げることが出来るのではないかと思う。 そうすることで、県内宿泊者の増加につながり経済波及効果も大きくなるのではないかと思う。(徳島市・40代)</p>
	<p>○ とくしまLEDデジタルアートフェスティバルでチームラボの作品を展示していた頃と比べて、近年のLEDデジタルアートイベントは規模も小さく、PRも不十分ではないでしょうか。経済効果を生みさせてこそそのイベント開催だと思うので、イベント開催することに意義がある、というような現在のあり方は疑問です。 アートイベントで観光客の集客を目指すのであれば、香川県の瀬戸内国際芸術祭や新潟県の大地の芸術祭のような成功例を研究し、徳島県ならではのあり方を考えるべきだと思います。(徳島市・10代以下)</p>
	<p>○ 従来の「消費型・娯楽型観光」の政策のみに目を向けるのではなく、スポーツ・エコ・歴史文化・グリーンブルー(農林水産)などの「教育・学習・研修型ツーリズム」に今の段階から適切に施策を打っておくべき。産学民官連携組織である「旅と学びの協議会」等での広域連携も考えていきたい。派手な宣伝から落ち着いた色調の看板、簡素だが学術的知見に基づき記載された説明等の蓄積自体が貴重な財産になる。(徳島市・50代)</p>
	<p>○ 文化の森総合公園の入場者数が大きく減っていることに驚きましたが、そういえば私自身も最近行ってないことに気づきました。娘が小さい頃は、絵本を借りるため月2回ぐらい図書館に行き、気になる企画展があれば二十一世紀館や近代美術館にも足を伸ばしてましたが、図書館に行くこと、つまり私にとって「文化の森に行くきっかけ」が無くなっています。 蜂須賀の殿様が茶を楽しんだ風光明媚な場所ですし、環状線整備で交通の便も良くなったと思いますので、企画内容やPR手法の改善で来場者は増えると思います。PR手法ですが、調べなくても自然に目や耳に入るテレビやラジオが個人的にはいいと思います。(徳島市・40代)</p>
	<p>○ 木のおもちゃ美術館は親子で楽しめる施設だと思う。そういう徳島の特徴をPRした施設作りが県内の活性化や県外からも人が行ってみようと思える施設を作ってもらえると徳島もにぎわうと思う。(名西郡・30代)</p>

集中議論  
テーマ

徳島に「にぎわい」を生み出す  
(観光・文化・スポーツ・企業誘致・雇用・移住)

- 新しくなった青少年センターもちろん若者が集まりやすいイベントの広報(学校に配布)や今の若者も就職結婚子育てになると離れてしまうので、親子や赤ちゃん連れが行きやすいイベントも作ると、その子供が大きくなって、小さいころ行ってたから行ってみたいと、若者の活性化につながるのでは。(名西郡・30代)
- スポーツ振興によるにぎわいづくりにおいて、計画を参照する限りでは令和元年くらいから着実に国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数は増加しており、そのことは県民として非常にありがたいと思っています。  
しかしながら、県内におけるスポーツ振興の機運が高いかと言われれば、微妙かなと感じるところもあります。最近で言うと、「徳島ガンバローズ」がプロバスケットボールリーグに参入したこともありますので、プロだけに限らず学生も含めた選手の育成・大人数の観客を収容できるスポーツ施設の設置、各種広報活動などハード・ソフト両面の政策を推し進めてもらいたいです。(つるぎ町・50代)
- 徳島ヴォルティスの新スタジアム建設  
理由 ・場所が悪い  
・現スタジアムは風が強すぎてチームのプレースタイルと相性が悪すぎる  
  
徳島ヴォルティスが盛り上がることで、スポーツへの関心を持つ人が増えるはず。前知事(県)が関与して立ち上げたチームなのに、立ち上げた後は放置しますはどうなのか。県内全ての地域をあげて盛り上げていこうではないか!(徳島市・40代)
- 音楽ホールの建設を早急に。  
四国初劇団四季劇場の誘致。  
子供たちが本物の音楽文化、演劇に触れることは発達成長の過程で大事なことです。貧富差なく触れ合う機会を作って欲しい。(徳島市・40代)
- 新ホール整備について意見させていただきます。  
現在の案では大ホール2000人、小ホール300人収容のホールができる予定と認識していますが、正直大ホールは1500もあれば充分だと思います。それよりは小ホールの収容人数を倍の600に増やしてもらった方が学校関係、また小規模アマチュア団体なんかは使い易いと思います。  
また、ホールの外観など見た目もちろん大事ですが、同時に演者や観客が満足できるような、音響などの設備も整えてほしいです。  
何にせよ、現在徳島県内で活動しているアマチュアの音楽・演劇団体は発表の場がなく困っています。  
県民に愛されるホールが早く完成することを願います。(徳島市・40代)
- 文化芸術について、地域資源としてもう一度見つめ直し、地域活動団体への細やかな支援や、活動拠点の整備等の基盤的な施策を進めていただきたい。(徳島市・50代)
- 昨年度はeスポーツ(レーシング部門)の国体前に徳島県大会があり、国体優勝者が徳島県から出て非常に盛り上がりました。これは一重に徳島県大会があり、選手が切磋琢磨した結果、県内からチャンピオンが出たと思います。  
しかしながら、今年度は四国の中で唯一徳島だけが県大会が無いという残念な状況に失望しております。国体が今年も鹿児島で開催されますので、ぜひ今年も昨年同様に県大会を開催して盛り上げていただきたかったです。(石井町・50代)

<p>集中議論 テーマ</p>	<p>徳島に「にぎわい」を生み出す (観光・文化・スポーツ・企業誘致・雇用・移住)</p>
	<p>○ 「本社機能の誘致」については、確かに法人税の面から考えると県にメリットはあるが、登記を移すだけでは、雇用の増加というメリットが得られない。 また、本社機能移転をその企業で働く従業員の側から考えると、それぞれの生活や家庭があるのに、会社の方針というだけで、それらに大きな変化と負担を発生させる。 県への経済効果とその企業の社員の幸福を考えれば、本社機能にこだわりすぎず、まずは事業所を開設してもらって、県民を雇用してもらおうというスタンスの方が良いのではないかと考える。(徳島市・30代)</p>
	<p>○ ターゲット1の重点戦略1-3、ターゲット2の重点戦略4-1において「本県への本省・本社機能の移転」を目標に掲げてましたが、満足できる結果ではなかったと思います。 当初はブロードバンド環境の整備を強みにしてましたが、それ以外の環境整備は十分だったのでしょうか。 雇用の場を創出し、若い人達の県外流出を防ぐためにも、機能移転の障害を検証し取り除くことで、今後1社でも多く徳島に来てもらいたいです。(徳島市・40代)</p>
	<p>○ 県外に進学していた学生が地元に戻って就職したいと思ったとしても、県内の就職先は選択肢が少なく、徳島に戻るのを断念したという話を聞いたことがある。若者が徳島で働きたいと思えるよう、あらゆる業種の企業を誘致してはどうか。(北島町・30代)</p>
	<p>○ これからの仕事・産業の芽は事業所誘致から「知識誘致」に大きく変わっていく。 現行の指標値の「本社機能誘致」のような形から、コワーキングスペースやリビングラボ・イノベーションラボのような、多様な知識・技術人材を集める「知識集約拠点」の整備・誘致に力を入れていくとよいのではないかと。(徳島市・50代)</p>
	<p>○ 若者のとくしま回帰の最大課題は就職問題だと思います。 若者が徳島を選択できるように、魅力ある雇用創出や官公庁での多様な社会人採用枠の拡大など急がなければならない課題だと思います。(阿南市・30代)</p>
	<p>○ 再生可能エネルギーのうち、風力発電は浮体式発電のような新技術や東北地方における国主導の大規模プロジェクトなどのトピックがあり、現在注目されている。 本県でも、他県に先んじて取り組みをすすめることで、全国から注目を集めることができると考える。 加えて、そういった地域を巻き込む取り組みに対して、理解のある県民性であることを国内外の企業に対してアピールすることもできると考える。(徳島市・30代)</p>
	<p>○ 県内大学等への留学生の受け入れについて、現在知事が注力しているタイからの受け入れを増やせば、タイに対してもよいアピール材料になると思うので、タイ語対応を強化するべきだと考える。(徳島市・30代)</p>
	<p>○ Society5.0は、全国的にはむしろ民間ベースで事業の展開が進んでいる領域。県レベルでは先導的・基幹的な政策の推進を凶った方がよい。国家戦略特区やスマートシティの指定促進(促進を働き掛けた市町村数、指定数ではない)、人材育成のためのリカレントプログラムや高等教育機関での学環(極小規模大学院)創設のようなものがないのではないかと。(徳島市・50代)</p>
	<p>○ 企業・官公署・大学等の全ての組織において、40歳代以上の「学び直し」や技術再習得を行わないといけない切実な状況。古い知識で若い世代や他の組織からの有効な提案をすべて潰してしまう。 現在の生涯学習指標値のようなものではなく、大学・高専と連携したしっかりとしたリカレントプログラム(履修証明プログラム)を、数は少なくとも創出すべき。イノベーション創出・マネジメント・リスキルの3領域で検討いただきたい。(徳島市・50代)</p>

集中議論  
テーマ

徳島に「にぎわい」を生み出す  
(観光・文化・スポーツ・企業誘致・雇用・移住)

- 空き家バンクを県で運営できないか。  
市町村ごとに空き家バンクを運営しているが、積極的な自治体と消極的な自治体があり、その差が著しい。これは個人の考えだが、自治体が売りに出している物件は、なんとなく安心感があるので、積極的に扱って欲しい。少なからず、私と同じような考えの人がいるはずなので、移住促進に少しは役立つのではないだろうか。(三好市・50代)
- 移住者が移住してくるまではいいが、本当の問題はきてからその地域に馴染めるかどうかである。だからこそ来た後のケアにも自治体は力を入れるべきである。  
(例。移住者掲示板や移住者専用電話窓口創設等)(板野郡・20代)
- 徳島に住みたいと思わせる魅力が必要。アニメの舞台となった場所を訪れる聖地巡礼があるが、聖地移住というのがあるらしい。アニメやNHKの朝ドラ等で舞台に取り上げてもらうよう働きかける。藍染職人を目指す若者の話や、人形浄瑠璃に携わる人の話などはどうか。アニメだけでなく、農業大学校を中心とした農業専門家の街、徳島大学を中心とした最新医療関係者の街、鳴門教育大学を中心とした教育者の街など、専門的なオタクのスマートシティを作り、そこで住めば、最先端の知識や情報を持つ人と関わることができるようにすれば、移住する人が増えるのではないか。  
膨大な予算や年月がかかるが、若い人が住みたいと憧れるような県になる。(阿南市・50代)
- 徳島市から鳴門市に引っ越したのですが、鳴門市ってこんなにさびれていたかなと感じました。橋を渡って最初の街がこんな感じでは県外客もビックリするのではと思うほどです。鳴門の駅前もどこかの町の駅かなと思うぐらいです。自然豊かな魅力を十分に発揮するには、多少の商業施設も必要かなと思います。  
文化会館も閉館してしまい吹奏楽コンクールは香川で開催していると聞きました。自分の地元で開催できないほどの田舎と若者も思うのではないのでしょうか？  
鳴門市だけに限らず徳島県を魅力のある街にして若い子が住み続ける活気のある県にして欲しいです。(鳴門市・40代)
- 県西部の住民は、休日の買い物で香川県や愛媛県に行き、徳島市に向かうことは少ない。これは県西部に魅力的なショップがないから、また市内にもわざわざ出掛けるほどのショップがないからと思われる。  
あえて、県西部にアウトレットモールを誘致するのはどうだろうか。  
四国の真ん中あたりに位置する県西部は四国中からの集客が見込めるのではないか。  
平日の集客が不安ではありますが。(三好市・10代以下)

【参考：その他意見】

テーマ	グリーン社会
	<p>○ 現行計画の指標値の達成が必ずしも施策群の推進とは一致していない。適応策ベースでは、現行施策ですで行われている果樹類の品種・樹種転換や海岸施設や河川堤防の強化等の方が合致するのではないかと。 今後の施策としては、農林水産業ではむしろ平均気温2℃上昇を見込んだ作物・水産物の早期導入、熱と電気の双方を消費する医療福祉系施設でのコジェネレーション導入、といった方がより具体的になるのではないかと。（徳島市・50代）</p>
	<p>○ 5つの指標値のうち、直接生物多様性に関わるものは5番目くらいで後は生活環境領域のもの。行動指標が立てられない場合には思い切って外す勇氣も必要。 徳島県では世界的にも注目される高丸山自然の森をはじめ、とくしま絆の森、阿南市大湊干潟など「自然再生」のフィールド事例にも恵まれている。こうした分野でトップワンを目指してはどうか。例えば高丸山自然の森に今後の安定的な種苗供給を行うためのシードバンクを創設するなどはどうか。（徳島市・50代）</p>
	<p>○ 徳島県が全国ワースト1のひとつが「汚水処理」や「下水道」の普及率ですが、市町村の取り組み姿勢に大きく左右される気がします。 下水道や集落排水などの集合処理方式が有利と思える地域であっても、個人による合併処理浄化槽整備だのみ。たしかに徳島は浄化槽が有利な地域が多いと思いますが、それなら適正な維持管理ができる市町村管理型を推進していただきたいです。 徳島に「どぶ川」は要りません。次の世代のためにもよろしくお願いします。（徳島市・40代）</p>
	<p>○ 地球環境対策は、成果が表れにくいものが多く、未達を避けるためプロセス自体が目標とされているものが多かった。無理に目標を設定する必要はないのではないかと。また、環境分野の目標の中には、無理に防災と結び付けられていたものがあつた。（鳴門市・50代）</p>

テーマ	農林水産業
	<p>○ 農業用資材不足や化石燃料費用高騰、買取価格の低迷で農業が成り立たない国になっています。 刷新的な仕組みが必須であると考えて、有機堆肥を使った農作物を無添加冷凍加工し販売する復興常備食を阿南から広げています。 復興常備食とは、いつもの食事がもしもの時に役立つ仕組みです。（阿南市・50代）</p>
	<p>○ 徳島県はかつて全国一のたけのこ産地でその7割以上は阿南市で産出していました。現在は竹林の管理が間に合わず、放置竹林が問題になっています。管理に必要な伐採量は阿南市のみで3万トン/年になります。 竹はチップ化すれば製紙やバイオマス発電の原料になります。それぞれ技術課題がありましたが、既に解決し他県では同様の用途に竹を利用しています。 阿南市には竹林が豊富で更に製紙工場や大型のバイオマス発電業者があり、それぞれの工場で設備や技術対応すれば処理可能になります。竹を伐採しチップ化して工場などに搬入する仕組み造りと、伐採した竹をふもとの集積場までの運搬方法（ドローン活用など）を開発する必要があります。（阿南市・60代）</p>
	<p>○ 提案 あわっこはぐくみ農園の運営 各地域の耕作放棄地を借り上げ、その地域に住む小学生を対象に農業体験（耕し、植え付け、水やり等全ての工程に参与）をしてもらう。扱う作物は地域に適した野菜にする。うまくいけばブランド化する。（例、あわっこにんじん） 農業者を増やすといっても、農業を身近に感じる体験がないとなかなか新規耕作者の増加は難しいと思う。だからこそ地域の小学生のときに農業に触れ、少しでも興味を持つ子が出てくれたらと思う。（ブランド化できたらさらに学習になるのですが。） また、耕作放棄地問題に少しですが貢献もできます。（藍住町・20代）</p>

テーマ	子育て支援
<p>○ 少子化を改善するには、医療費無償化等の補助金施策ではなく、出産等で休んでも復帰しやすい環境づくりや、保育所の充実など、子供を産んでもキャリアが継続できる施策を希望します。（徳島市・40代）</p>	
<p>○ 子供を産み育てたいと思う社会を形成する上で、まずは家庭でのパートナー同士の協力ができる体制づくりが重要と思います。そのために、働き方改革、ワークライフバランスの推進が有効な方策の一つではないかと思えます。（徳島市・40代）</p>	

テーマ	教育
<p>○ 現在の学生は、少し前の学生と比較して、ITや先進技術に触れる機会が多くなっている。これからの若者にとっては、このような技術の理解又は習得が必須となってくる。県のGIGAスクール構想は、若者がITや先進技術に触れる機会であるため、今後も押し進めていただきたい。 とくしま行動計画にある「個別最適な学び」の観点から言うのであれば、学校教育は与えられる学びが圧倒的に多いと感じるので、積極的かつ自発的な学習を促すため、定期的にでもいいので「自分が学びたいことを探し、自分の力で学ぶ時間」を創出するべきであると感じる。（徳島市・20代）</p>	
<p>○ 鳴門市地域おこし協力隊の者です。 徳島県に来た理由は、徳島インディゴソックスに入団したのがきっかけです。野球選手として活動する中で子供たちの触れ合う機会がありました。自然豊かな徳島、とても子供たちはキラキラしていましたがコミュニケーションがどこかぎこちない。 原因は何かと思った時、ふと都市部に比べて子供たちが芸術に触れる機会が少ないからではないかと感じ、気軽に舞台芸術に触れられる場所を作りたい！という思いで地域おこし協力隊に応募しました。 徳島県民ミュージカルを発足したいです。徳島から未来のミュージカルスターを。演劇を通じた情操教育を徳島から。（鳴門市・20代）</p>	

テーマ	防災
<p>○ 防災に意識が薄い人もまだまだたくさんいる。学校授業や保育園参観とかに防災171やり方だったり、簡易トイレ使い方とか。もし被災しても役立つ生活知恵とかの内容を取り入れたら身近なものになるのでは。（名西郡・30代）</p>	
<p>○ 道路・水道・電気ガスと並んで、やはり通信の冗長性確保についても県として重要視していただきたい。直接の通信線整備ができなくても、ダークファイバーの開放や県道における情報ボックスの整備を行っておけば、通信回線の冗長性に寄与できるはずだ。 山間部・離島では太陽光・風力・小水力発電装置と蓄電池（あるいは燃料電池）のミニセットを公民館に備え付けていくことも重要。（徳島市・50代）</p>	

テーマ	地域公共交通
<p>○ JR四国の駅トイレが汲取り式であり、改築した駅舎がバスの停留所の大きさと全国スマホニュースを見た。地域公共交通について県で「乗って残す」運動をしていますが、住民へのお願いでは残すまでの収益レベルには到達しない。            弊方の試算によると阿南市関連の牟岐線や徳島バスの収益を黒字化するには現状の利用者数を3~4倍にする必要があり、目標を達成するには80%以上のマイカー通勤を規制して半数以上をJRやバス利用してもらおう方法がある。            通勤時間帯に牟岐線を増便し、大手企業などの従業員にバスを利用してもらい、途中の中高校、病院などへの利便性を高めることはできませんか？エコ通勤で脱炭素にもなります。（阿南市・60代）</p>	

テーマ	DV・性暴力対策
<p>○ 「デートDVサポーター数（累計）」を主要指標に掲げ、目標達成されてましたので、サポーターの事を調べてみようと思いましたが、県のホームページを見ても、ネットで検索してもヒットしませんでした。県の行動計画の指標に掲げる項目なら、もう少し丁寧な情報発信を心がけていただきたいです。            また、実績が「累計」にしていることにも違和感を感じました。参加者数や修了者数などは累計でもいいと思いますが、サポーターは実人数が適当だと思います。（徳島市・40代）</p>	

テーマ	その他
<p>○ 令和4年度に実施された「とくしまグルメプレミアム食事券」を一例にあげると、購入した食事券が購入した店舗でしか使えないというのが事業者また消費者の目線に立ってはいない。そんなことは事業者も消費者も誰も望んでいない。            何をやるにしても企画の段階から事業者や消費者の意見を踏まえて事業に反映してもらいたい。県庁職員の素人軍団の机上の空論のやり方では上手くいくはずがない。            また、購入の申し込みをしても換金されてない食事券もかなりあるようだが、決算報告等も県民に公開すべきだ。（徳島市・60代）</p>	
<p>○ 政策提言については、わざわざ県側から行わなくても、上勝町のゼロウェイストセンターや神山町の神山まるごと高専のように、魅力のあるコンテンツがあれば、国側から問い合わせて来ると思います。            政策提言をするための時間を使って、魅力のある事業をする方が建設的ではないでしょうか。（徳島市・30代）</p>	
<p>○ 県民性なのか、徳島県民は徳島県の良いところを聞かれても、「何もない」と言いがちである。            徳島ラーメン、鱧、すだち、阿波踊り、眉山など、なんでも答えたらいいはずなのに、わざわざ「何もない」である。            だから、県民の意識改革を進めるべく、「徳島何もないけん(県)」→「徳島めっちゃあるけん(県)！」をキャッチフレーズに頑張るのがいいと思います。（阿南市・30代）</p>	
<p>○ 若者に魅力ある「しごと」づくりについて、民間部門で雇用創出できない経済状態ならまだしも、人手不足が叫ばれる現在においては、行政部門が関与しすぎる必要はなく、民間に委ねた上で、違法な雇用をしている企業を規制するスタンスでよいと考える。（徳島市・30代）</p>	